

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成へ。

- 1 学ぶ力をつける……生徒の学ぶ意欲を向上させて確かな学力を身につける。
- 2 人間力をつける……知・徳・体のバランスのとれた人間性を育み、人間力をつける。
- 3 地域から信頼される学校をつくり、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
- 4 学校の組織力の向上と活性化

## 2 中期的目標

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成のために

## 1. 学ぶ力をつける

- (1) 生徒の学ぶ意欲を向上させ確かな学力を身につけるために、正課授業の集中度を高め、生徒の授業満足度が高い授業が行えるように全教員の授業力の向上を組織的に取り組む。
- (2) 大職員室を活用し、訪れた生徒が目的教科以外の教員の指導も受けやすい環境をつくる。
- (3) 3年間を見通した学習指導計画、進路指導計画を今一度構築し、生徒の学習意欲、進路意欲の向上を図り、生徒の第一希望の進路実現に繋げる。
- (4) 基礎的学力の強化 平成 26 年度から導入した朝学（総合基礎）の更なる充実を図り、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。また、1 学期終了段階で各教科のやり直し補講等を行い、2 学期以降の随時・個別の指導や生徒の家庭学習活動を支援・強化する。
- (5) 放課後講習の組織化と拡大  
自習室を整備したことを踏まえ、放課後講習の組織化を進め放課後の学習機会を確保・拡大していく。
- (6) 長期休業期間講習の実施。
- (7) 平成 27 年度入学生から専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [文系] とグローバルスタディサイエンスコース [理系]）制を導入することにより、コース生はもちろん、コース生以外の生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、国公立大学や「関関同立」など難関私大への進路希望の実現に寄与し、国公立 50 名以上「関関同立」250 名以上の合格を目標とする。
- (8) 平成 27 年度「学校経営推進費」により導入した、ICT 機器である電子黒板とタブレット型端末を有効に使用することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力（特に、英語を中心としたコミュニケーション能力）の向上に資する。また、外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入することで、より英語の力を向上させる。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の 75%を更に向上させ今年度には 80%を維持する。

## 2. 人間力をつける

- (1) 人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施する。
- (2) 教育相談体制の充実。「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的にを行い生徒相談機能を高める。
- (3) 正課授業や部活動その他の機会において地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
- (4) 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。
- (5) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし更に有効有意な関係を構築する。
- (6) (5) の進展に合わせて、自治会活動の全・定連携をめざし、全定生徒の交流行事等を立案実施する。

※学校教育自己診断におけるそれぞれの評価活動を点検し、生徒の人間力を高める計画の立案と実行を図る。  
(進路相談・教育相談への生徒評価及び自分の成長を実感する項目で、5%上昇をめざす)

## 3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

- (1) オール桜塚の体制でOB、地域の有志と連携した事業を展開する。
- (2) 多文化社会を実感・体験するため国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を促進する。
- (3) 豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携をさらに充実させ、生徒の社会的経験知の向上を図り、進路実現に寄与するキャリア教育にも繋げる。
- (4) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。
- (5) 広報活動を充実させる。HP を更に見やすく、魅力的なものにし、更新を頻繁に行う。また、中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。

※学校教育自己診断において生徒の自己評価の低かった地域活動をさらに周知し、生徒の力に替え、地域の信頼の一層の獲得を図る。現在の 70%を維持する。

## 4. グローバルリーダーの育成

- (1) 上記 3 を基本に国際社会で通用する人材を育成するため、地域の伝統や文化に対する理解はもとより、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。世界の様々な国からの長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
- (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。その為に、海外語学研修、国際交流に努め生徒の国際的な視野を育むとともに、授業に言語活動を積極的に取り入れ、英検や TOEFL 等の資格取得を進めることに取り組む。
- (3) 「めざす学校像」を実現させる為に、平成 27 年度入学生から専門コース制を導入することにより、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

※今年度以降も英語圏への海外語学研修を継続して実施し、アジア圏への異文化研修も積極的に実施する。修学旅行も可能な限り海外に行くことをすすめる。

## 5. 学校の組織力の向上と活性化

- (1) PDCA サイクルにより学校経営を確立し、組織力の向上を図り、学校運営における組織的な取り組みを更に進める。
  - ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
  - イ 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行うために、学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。
  - ウ 平成 27 年度入学生から専門コースを設置した。今後、コース制 PT や運営委員会等を中心に専門コースの更なる充実・改善を図る。
  - エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。

※内規等諸規定の整理と改善を行う。  
※専門コースに新しく設置する専門教科・科目の研究を深め、シラバスの更なる充実を努める。

## 6. 不祥事発生の未然防止を図るために、一層の取り組みを進める。

- (1) 不祥事防止に関する校内研修を実施し、問題意識を共有する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【総括】</b> 保護者への質問数 23 のうちの 22 項目、生徒への質問項目総数 39 のうち 33 項目で肯定的回答が否定的回答を上回った。また、学校に対する総体的印象を聞く質問である「子どもは学校に行くのを楽しみにしている（保護者）」は 82%、「学校に行くのが楽しい（生徒）」は 80%といずれも高い値を維持した。</p> <p><b>【学習指導等】</b> ・今年度も 5 月と 11 月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業見学や研究授業を行った結果「他の先生が授業を見学に来る」は 80%となった。全教員が自教科と他教科の授業を見学し、見学対象の教員と授業について意見交換を行った。また授業アンケート結果を踏まえた教科・学年別の協議を行い、教科ごとに授業改善の方法について検討して報告書にまとめ、全校で共有した。 ・電子黒板の整備を進めた結果、「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」は前年比 15%増となった。活用に習熟している教員による授業をアクティブラーニングの手法の観点から再構築する教員研修を行い、教員の授業力の更なる向上を図った。3 学期には学校経営推進費による整備で 3 年全教室にも電子黒板を設置したので、本校の全普通教室に電子黒板が整備された。今後、全学年で ICT を取り入れた「わかりやすい授業」をより推進していきたい。その為にも教員が ICT 機器に習熟すると共に、バランスのとれた授業での活用方法を更に研究していく必要がある。</p> <p><b>【生徒指導等】</b> ・昨年度から、携帯電話・スマートホン等の校内持ち込み制限を行っている。さらに服装指導についても生徒に品位の維持を求めて、規則の運用の厳格化を進めた結果「学校生活について先生の指導には納得できる」の生徒の肯定的回答は前年比 9%減となったが、「生活規律や学習規律などの基本的生活習慣の確立に力を入れている」の生徒の肯定的回答は 71%であり、生徒達が自主的に規律を遵守しようとする意識が高いことがわかる。</p> <p><b>【地域連携等】</b> ・昨年同様、豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流が評価された。肯定的評価は生徒 64%、保護者 80%、教職員 90%と安定的であった。今後、全ての生徒が自ら進んで事業や交流に関わるような、より魅力的なプログラムを設定することで達成感や自尊感情を高めていくことが必要である。</p> <p><b>【学校運営】</b> ・「PDCA サイクルによる学校経営を推進している」が 64%であり十分とはいえない。経営手法である PDCA についての教職員の理解を更にすすめる必要がある。 ・サービスについての職員研修をワークショップ形式で実施した。「教職員のサービス規律への自覚が高い」は 80%であり、サービス規律に対する意識は高いことがわかるが、目標としては 100%を達成すべきところである。</p>	<p><b>【第 1 回（7 月 6 日）】</b> ○平成 27 年度学校経営計画について ・学校経営推進費による教育環境の整備や外部講師の活用により生徒の英語力の向上が図られることは喜ばしい。 ・進学実績の向上は生徒や保護者だけでなく、卒業生の願いであり地域の期待でもある。そのため専門コース制の設置であると理解する。桜塚の飛躍の起爆となってほしい。 ・専門コースが英語力の向上を中心とした文系の GSC(グローバルスタディコミュニケーションコース)だけでなく、数学と理科の力を飛躍的に高める理系の GSS(グローバルスタディサイエンスコース)も設置されたことを支持する。理系生徒の国公立大学や難関私大突破を支援して頂きたい。 ・生徒のコース選択に際して保護者にも十分な理解と納得の得られるように説明会を開催したことは適切であった。 ・専門コース以外の生徒にも十分な目配り、気配りをしていただきたい。 ・勉強合宿「Sakura Study Camp」の実施もこれまでにない取り組みで積極的に生徒の学力向上に取り組む姿勢を評価する。 ○生徒の活動状況に対して ・関関同立の進路実績が過去最高になったことは喜ばしい。国公立の進路実績の奮起を期待する。 ・春の「観桜会」の評判がすこぶる良い。桜塚生の良さが地域に浸透してきたと思う。 ・高大連携の推進は大いに評価する。生徒の学ぶ意欲の向上に資すると考える。 ・アメリカ語学研修やアジア異文化理解研修が参加生徒に素晴らしい変化をもたらしている。特に帰国後の学ぶ意欲の劇的な向上は目に見張るものがある。事前学習がしっかりととされていることが成果につながっている。今後も継続して頂きたい。高校生のうちに外国に行くことはとても有意義だ。 ・中国からの訪日団の来訪で生徒同士の有意義な交流ができたことを評価する。このようなこころの触れ合いが国同士の厳しい関係を変えていく原動力になる。真の国際交流がなされている。</p> <p><b>【第 2 回（12 月 2 日）】</b> ○授業見学感想 ・アクティブラーニングは教科の特性により方法が変わる。授業の内容により様々な工夫を凝らし、充実させて頂きたい。 ・電子黒板を使った授業を見た。支援してよかったと思う。 ○学校説明会及び授業公開について ・説明会に参加した中学生と保護者の満足そうな会話を聞いた。充実した説明会であったようだ。これからも憧れの学校であり続けてほしい。 ・学校の設備で評価の低かったトイレの改修をすすめてほしい。 ・授業公開に参加した。良い取り組みなので継続されたい。 ○修学旅行について ・台湾への修学旅行でしっかりと事前学習をしてから行ったことを評価する。例えば国旗の扱いなどは正しく行わないと相手国とトラブルにもなりかねない。</p> <p><b>【第 3 回（2 月 19 日）】</b> ○学校教育自己診断の結果と分析について ・アクティブラーニングについての教員研修が、大学の研究者を招いて「理論編」「実践編」の 2 回行われ、生徒観察や授業展開の方法について具体的なアドバイスをもたらすものであったことを評価する。 ・中学校ではもうすぐ「道徳」が教科化され、アクティブラーニングの手法が必要になってくる。高校での実践の深化に期待する。 ・生徒指導を適切に行うことにより規律が保たれている。「桜塚はしっかりしている」というイメージが生徒にも保護者にもある。評価したい。 ・保護者からの悩みや相談があった場合、気軽に相談できる雰囲気醸成に努められたい。ケイタイメールマガジンの発行に加え、担任からの個別の情報発信もさらに頻繁に行った方がよい。 ・生徒の自治会活動への参画意識をさらに高める工夫を求めたい。 ・在校生が HP にもっとアクセスするよう改善を図られたい。</p> <p>○平成 28 年度学校経営計画（案）について ・「桜塚スタンダード」の実現を目標に教科指導に取り組むことと、ブラッシュアップを重ねていくことを追加することを了承する。 ・万が一不祥事が発生した場合は初動が極めて重要である。取るべき行動を列挙するなど、「対応マニュアル」を作成しておくことを求めたい。 ・18 歳への選挙権付与に係る主権者教育については、公教育の中立性に留意しつつ、授業だけでなく、自治会活動においても行うことをめざしていただきたい。 ・遅刻数が増加傾向にある現状を踏まえ「遅刻数の減少」を追加することを理解する。早朝からの「朝学」実施もあり、困難を伴うと思うが頑張ってください。 ・遅刻を繰り返す生徒の内面に迫る指導を行うことが遅刻数の減少につながるため教育相談との連携を進めるべきである。 ・定時制の文化祭に全日制の生徒や教員が参加したり、東北へのボランティアバスに全定の生徒が共に参加したりするなどの交流はよいことである。全定生徒の交流がさらに深化・発展し、一緒に何かを達成することができたら、地域として嬉しく思う。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
-----	----------	-------------	------	------

## 府立桜塚高等学校

目標				
1 学 ぶ 力	<p>(1) 授業力の向上</p> <p>ア 授業改善のための諸施策を行う</p> <p>イ 総合基礎（朝学）の充実</p> <p>ウ 専門コースの設置</p>	<p>ア 昨年度設置した「授業力向上等検討委員会」で、研究授業（電子黒板等ICT機器を取り入れた研究授業も含む）や教員相互の授業見学等の実施計画等を作り実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレット型端末等ICT機器を有効に使用することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力（特に、英語を中心としたコミュニケーション能力）の向上に資する。</li> <li>授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。また、結果に基づき各教科等でも改善策等を協議する。</li> </ul> <p>イ 昨年度1年間の結果に基づき、更に学校をあげて組織的に取り組み、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。</p> <p>ウ 専門コースを設置し、学力の更なる効果的な向上を図る。1年次に勉強合宿を実施するとともに各教科の放課後講習等を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏季や冬季の長期休業時にも講習を組織的に計画し実施する。</li> </ul>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度4項目平均で5%向上（平成26年度68%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同上（平成26年度68%）</li> <li>授業アンケートの1回目と2回目の比較において全項目での上昇</li> </ul> <p>イ 英検・漢検等の資格取得者数と英語能力判定テストや確認テスト等での向上</p> <p>ウ 生徒アンケートを実施（満足度90%以上を維持）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター試験の各科目平均点上昇、受験率向上</li> </ul>	<p>ア 今年度も年2回「授業力改善月間」を設置し、教員相互の授業見学を実施。全教員が自教科及び他教科の相互見学を実施。学校教育自己診断結果における授業満足度63%（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板は1月10日に3年生の9教室に設置完了したが、タブレット型端末等ICT機器は現段階ではまだ購入できていないので、有効な活用は来年度以降になる。学校教育自己診断結果における授業満足度63%（○）</li> <li>授業アンケートの1回目に比べて2回目が9項目中6項目で上昇し、1項目は同じであった。教員が「よりわかりやすい授業」を心掛け授業改善に努めた結果であることがわかる。（◎）</li> <li>現時点では、英検準2級以上取得者224名（昨年44名）漢検準2級以上取得者51名（昨年28名）（◎）</li> <li>生徒アンケート結果は勉強合宿に対しては91%、講習等に対する生徒満足度は85%であった。また、センター試験の受験率は4%向上した。（57%→61%）（◎）</li> </ul>
2 人 間 力	<p>(1) 人間力をつける</p> <p>ア 「あいさつ運動」の推進及び地域貢献活動等への参画</p> <p>イ 教育相談体制の充実</p> <p>ウ 部活動の充実</p> <p>エ 定時制との関係の充実</p>	<p>ア 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。また、様々な機会を捉えて地域貢献活動等に積極的に参加する。</p> <p>イ 「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、生徒相談機能を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かく丁寧でカウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。</li> </ul> <p>ウ 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p> <p>エ 教職員が協力することで同じ施設を共有する仲間意識や互いを思いやりあう意識を養っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、全定相互の授業見学や共同の消火訓練等の実施。また、自治会活動の全定連携も視野に入れ、全定生徒の交流行事等も検討する。</li> </ul>	<p>ア 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率5%向上（平成26年度67%）</p> <p>イ 学校教育自己診断結果における関連2項目での肯定率平均3%向上（平成26年度53%）</p> <p>ウ 教職員向け学校教育自己診断75%以上（平成26年度75%）</p> <p>エ 教職員向け学校教育自己診断に定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答50%以上をめざす。（平成26年度48%）</p>	<p>ア 可能な限り毎朝登校時、生徒を迎え、声掛けを行っている。また、昨年度に続いて、自治会執行部の生徒達も自主的に毎朝「あいさつ運動」を展開してくれている。学校教育自己診断結果は62%であるが、下校時のあいさつも含めて学校では「あいさつ」が溢れているし、外来者からもよくあいさつをしてくれると褒められる。（◎）</p> <p>イ 学校教育自己診断結果は51%（○）</p> <p>ウ 例えば、ダンス部、軽音楽部が連続して全国大会に出場したり、野球部がベスト8に入ったりと多くのクラブが活動を熱心に行い、実績をあげている。教職員向け学校教育自己診断72%（◎）</p> <p>エ 教職員向け学校教育自己診断関連項目は44%であった。（○）</p>
3 地 域 連 携 と グ ロ ー バ ル リ ー ダ ー の 育 成	<p>(1) 多文化社会に生きるグローバルリーダーの育成のために</p> <p>ア 国際理解と人権に係る豊中市各機関との連携</p> <p>イ 大学等との連携</p> <p>ウ オール桜塚による支援</p> <p>(2) グローバルリーダーの育成</p> <p>(3) 広報活動の充実</p>	<p>(1) ア 多文化社会に生きる力を育成する為に、豊中市等との連携を深め国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊中市各部署、社会福祉協議会、国際交流協会等、豊中市各機関との連携事業を引続き推進する。</li> </ul> <p>イ 大阪音楽大学との提携活動の継続発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪大学、関西大学との連携活動の継続</li> <li>キャリア教育と進路実現に繋がる新たな連携模索</li> </ul> <p>ウ 生徒、OB、教員が一体となった地域連携を進める（例えば、枝垂れ桜の一般公開）</p> <p>(2) 国際交流を積極的に推進し、英語圏への語学研修を引続き実施する。加えてアジア圏への異文化研修や可能な限り海外修学旅行をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門コース制の導入により英語と理数系科目を強化し、学力の底上げを図る。</li> <li>外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入することで、より英語の力を向上させる。</li> </ul> <p>(3) HPで生徒の活動や地域連携事業の取り組みなどを公開していく。また、中学校訪問や学校説明会を開催して広報を積極的に行う。</p>	<p>(1) ア 生徒アンケート実施し満足度90%以上維持（平成26年度92%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断における関連項目での肯定的回答70%以上（平成26年度67%）</li> </ul> <p>イ 生徒アンケート実施（満足度90%以上を維持）</p> <p>ウ 生徒アンケート実施し満足度90%以上を維持（平成26年度94%）</p> <p>(2) 海外語学・異文化研修、海外修学旅行をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英検の校内実施とともに英検準2級以上の資格取得数を20%以上増加させる。</li> </ul> <p>(3) HPを月に5回以上更新する。学校説明会参加者数等による。</p>	<p>(1) ア 生徒アンケートの結果は85%であったが、交流等は昨年度よりも増えている。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断における肯定的回答64%と3%減（△）</li> <li>引き続き各大学と連携を継続し、生徒への支援を頂いている。生徒アンケート結果は86%であった。（○）</li> <li>生徒アンケート結果は86%であった。（○）</li> </ul> <p>(2) 国際交流として、高校生の訪日団を中国から2度、東ジャワからも1度招聘した。その他、メキシコ、ドイツ、アメリカ等から短期留学生を、ベルギーからは長期留学生を招聘するなど、昨年度以上に国際交流を進めている。年度末の3月にはアメリカへの語学研修を実施、韓国へは昨年度に引続き異文化海外研修を実施する予定であったが、海外情勢を鑑み中止。修学旅行は台湾で実施。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1月に2級取得者以外の2年生は全員受験で英検の校内実施を行った。今年度は準2級以上取得者は昨年比5.09倍増加している（44名→224名）。（◎）</li> <li>（3）HPを月平均して6回以上更新を行った。また、学校説明会を延べ11回行い、昨年度の参加者数を上回った。その他、11月に新聞朝刊に本校の取組み等が取上げられ、広く紹介され大きな広報・宣伝になった。（◎）</li> </ul>

## 府立桜塚高等学校

<p>4 学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>(1) PDCA サイクルによる学校経営の確立 ア 本校の課題に対する基本的な方向性を確立する イ 内規等の整理・改善 ウ 専門教科・科目の研究を行う エ 様々な分掌・委員会の活性化 オ 不祥事発生の未然防止を図る</p>	<p>ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。 イ 学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を引き続き行う。 ウ 専門コースに新しく設置する専門教科・科目の研究を深め、シラバスの更なる充実に努める。 エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。 オ 教職員の服務規律の更なる徹底の為に、校内研修を実施し問題意識を共有する。</p>	<p>ア 運営委員会のメンバーの学校経営計画実現に向けて寄与する度合いと教員向け学校教育自己診断関連項目の肯定率3%向上(平成26年度63%) イ 内規等の整理と改善をできるだけ進める。 ウ 専門教科・科目のシラバスの充実に努める。 エ 必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。 オ 校内研修において班別討議を継続実施する。</p>	<p>ア 運営委員会のメンバーは昨年度に引続き、常に、学校全体の立場から意見交換を積極的に行い、真摯に学校経営計画実現に向けて尽力している。学校教育自己診断関連項目57%。(○) イ 生徒達の学力の向上に資する為に、学校経営支援グループの指導のもと、全教科の「桜塚教科スタンダード」を策定した。また、引続き内規等のまだ不完全な部分について、整理・改善を行っている。(◎) ウ 専門教科・科目を導入する教科についてはシラバスの更なる充実に努めた。(◎) エ 過去2年間に行った分掌・委員会の改革を軌道に乗せるための1年であった。先生方の尽力もあり、順調である。(◎) オ 班別討議に基づく不祥事防止の校内研修を実施し服務規律の厳守について再確認を行った。(◎)</p>
----------------------------	--	---	--	---